

学生座談会で見てきた若者世代のホンネ

私たち、 こんな会社で 働きたい!

今回参加してくれたのは、学年も学校も目指す職業も違う現役大学生の4名。仕事やライフスタイルに対して違った価値観を持ち、それぞれの視点から意見を交わしてもらいました。

事例集を見てどう思う?

笹尾 出産や子育てにはどうしても「凄くお金がかかる」というイメージがあるので、結婚や出産とかこどもの入学のお祝い金の制度があるのはいいなと感じた。保育料が半額や無料になったり、保育料を助成してくれる企業もあると知って驚いた。子育てで大変そうだからこそ、こんな風にお金の不安が少しでも軽減されるいいなと思う。

寺川 『青磁野リハビリテーション』さんで「職場参観日」を設けているとあったが、どんな取組なのか気になった。授業参観のように、こどもが親の職場に見学に行くという取組があることを初めて知ったけど、こういった取組をしていること自体新鮮だった。親がどんな風に働いているか知ることができて、楽しそう!

田中 事例集を見ると各企業どこも色んな制度を取り入れていて凄いと感じた! なかでも「育児短時間勤務制度」や「子の看護休暇制度」が、小学3年や小学校卒業までなど、対象年齢を延長しているのがいいなと感じた。というのが、私の両親が共働きだったので、小学校の頃は寂しい思いもした。育児休業だとしても幼児の頃とか、小さい頃だけ制度があるイメージだったけど、こういった制度が小学校卒業まで延長してもらえらるっていうのがあるといい、良い制度だと思った。制度があるから、急な休みにも対応できそうだし、会社にも言いやすいのかも。

浪平 私は『野田市電子』さんの「深夜業の制限」が中学3年までに延長されているという学年に注目した。というのも、私の両親も共働きで深夜まで働くことが多くて、夜に親がいないということが当たり前だった。中学生の時でも親がなくて悲しいな...と感じたから。片親どちらかがいればいいということじゃなくて、夜には両親どちらもいて欲しかったから、深夜業が減るこういう制度があるのが凄くいいなと感じた。



(左から) 熊本大学4年生/笹尾さん、
熊本学園大学1年生/浪平さん、
熊本大学4年生/寺川さん、
熊本県立大学2年生/田中さん



将来どんな職場で働きたいって思っている?

浪平 特に育児休業は女性に比べて、男性は取りづらい会社内の雰囲気があるようなイメージがある。男性の育児休業の取得が進むには、「取った方がいいよ!」「取った方が自分の利益になる!」くらいに制度を整える必要があると感じた。それだけじゃなく会社のトップの人が発信することで、男性が育児休業を取るのが当たり前だという雰囲気ができると思う。

田中 「再雇用」の制度がある企業がいいなと思った。出産や子育てで一度仕事を辞めて、子育てがひと段落して復帰する人も多いと思うけど、その人がまた別のところで一から働くのはハードルが高いはず。子育ての不安が多いなか、仕事への不安がない方が育児にも集中できるのではないかな。

笹尾 就職が決まった友人との会話で、「●歳までには年収はいくら(個人の目標額)くらいよね〜」「でも、1回育休取ったら下がるし...。それなら(結婚や出産はせずに)30歳までは仕事に集中しようかな」とリアルな声も。育児休業を取ることでキャリアが止まってしまう不安をもっている人も多いと思う。キャリアや収入を優先するか、こどもを優先するか2択になってしまっている。だから、キャリアをとめずに、収入が減ることなく復帰できる会社があれば、多くの女性が救われると思う。

寺川 さっき浪平さんが言っていたように、男性が育児休業を取りやすい雰囲気作りが大事だと思う。自分自身、30歳までバリバリ働いて、結婚やこどもはそれから考えたいかな。そう考えるのも、笹尾さんのお友達のように、男性も育児休業をとったらキャリアに影響すると思っているので、取得するのが当たり前、取ることでメリットがあるようにして欲しい。

あともう一つあって、私も小学生の頃、両親が共働きで寂しかったので実は勝手に職場に行っていた。家の鍵を持っているのに忘れたと嘘をついてまで...。私自身親がこどもの近くにいることは大切だと思うので、家で働けるようにしたり、職場に保育園があったり、子連れ出勤OKだったりすればいいな。家で留守番させていると親も不安だろうし、どちらも救われると思う。